

秘

2563

海軍公報 第五〇七二號

昭和二十年七月十八日(水) 海軍大臣官房

○令 達

内令第五九六號

第九十五號海防艦

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

舞鶴鎮守府在籍

第九十五號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年七月四日

海軍大臣

内令第五九七號

昭和十三年内令第三四一號地方在勤海軍武官ノ在勤地ノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年七月五日

海軍大臣

臨時地方在勤海軍武官ノ在勤地名ノ部中「三池、」ヲ削ル

(内令提要卷一、一八ノ六頁参照)

内令第五九八號

昭和十七年内令第九〇〇號支那地方在勤海軍武官及南方地方在

秘海軍公報 第五〇七二號 昭和二十年七月十八日

勤海軍武官ノ在勤地ノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年七月五日

海軍

第一號中「塘沽、」ヲ削ル

(内令提要卷一、一八ノ九頁参照)

内令第五九九號

昭和二十年内令第二六八號(當分ノ開塘沽在勤海軍武官ハ主トシテ海上交通保護ノ事務ニ服スルノ件)ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年七月五日

海軍大臣

内令第六〇〇號

驅逐隊編制申左ノ通改正セラル

昭和二十年七月五日

海軍大臣

第四十一驅逐隊ノ項中「涼月」ヲ削ル

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第六〇二號

特設掃海隊編制申左ノ通改正セラル

七七七

20.7.25 授受

<p>昭和二十年七月五日 海軍大臣 第三十五掃海隊ノ項ヲ削ル (内令提要卷一、一五〇頁参照)</p>	<p>内令第六〇三號 佐世保鎮守府豫備驅逐艦 驅逐艦 涼 月 右第四豫備驅逐艦ト定ム 昭和二十年七月五日 海軍大臣</p>	<p>内令第六〇四號 昭和十八年内令二五六六號別表中左ノ通改正ス 昭和二十年七月五日 海軍大臣 佐世保防備隊ノ項特設掃海艇ノ欄ニ「第五十一播州丸(舞)」ヲ加フ 舞鶴防備隊ノ項特設掃海艇ノ欄ニ「第一濟州丸(舞)、第二濟州丸(舞)、第六博多丸(舞)」ヲ加フ 第二十八根據地隊ノ項ヲ削ル (内令提要卷四、八ノ二九頁参照)</p>
<p>内令第六〇五號 汽船 光隆丸 右特設敷設艦トシ吳鎮守府所管ト定メラル 昭和二十年七月五日 海軍大臣</p>	<p>内令第六〇六號 第二百二號海防艦 右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル 佐世保鎮守府在籍 第二百二號海防艦 右警備海防艦ト定メラル 昭和二十年七月七日 海軍大臣</p>	<p>内令第六〇七號 昭和十六年内令第一一二三號海軍航空廠ノ分工場ヲ置ク地、呼稱及分掌事項ノ件申左ノ通改正ス 昭和二十年七月七日 海軍大臣 第十二海軍航空廠宮崎分工場 第十三海軍航空廠宮崎分工場 ニ改ム (内令提要卷一、三〇ノ二四頁参照)</p>

内令兵第三四號
航海長主管兵器名稱中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十七日
海軍大臣

舊名稱	新名稱	記
九七式特眼鏡	九七式潛望鏡	型及改一改二等ノ種別ハ從來通トス
水防眼鏡	五式潜防鏡	

官房機密第四一四號

戰地用酒保物品取扱手續中第五條表備考四號但書ヲ左ノ如ク改

但シ主計長ヲ置カザル艦船部隊其ノ他各部ニ在リテハ必要ニ
應ジ所轄長ハ部下主計科准士官以上ニ、主計科准士官以上ア
ラザル艦船基地ヲ離レテ行動スル場合ハ所轄長所管經理部長
ト協議ノ上部下准士官以上ニ取扱主任ヲ命ズルコトヲ得此ノ
場合所屬長ハ其ノ旨關係各部ニ通知スルモノトス

昭和二十年七月十六日

海軍大臣

○通 牒

軍務一第一三九號

昭和二十年七月十六日

秘海軍公報 第五〇七二號 昭和二十年七月十八日

各鎮守府參謀長殿

海軍省軍務局長

法務科下士官ニ任用セラレタル者ノ普通善行
章ノ資格期間通算ニ關スル件申進

法務科武官任用特例ニ依リ法務科下士官ニ任用セラレタル者ハ
任用前ニ引續キタル録事若ハ監獄監守長又ハ警査若ハ監獄看守
トシテ勤務シタル期間ニ限リ普通善行章ノ資格期間ニ通算スベ
キ趣旨ナル處其ノ以前ニ於テ下士官、兵ノ勤務期間アルトキハ
其ノ期間ヲモ新ニ任用セラレタル法務科下士官ノ勤務期間ニ通
算スルコトヲ得ルコトニ定メラレ候條承知相成度

教育機密第三〇二號

昭和二十年七月十六日

海軍省教育局長
海軍省人事局長

海軍總隊參謀長
各鎮守府參謀長
各警備府參謀長
各艦隊參謀長
關係各廳長 殿

海軍豫備員タル海軍少尉及同少尉候補生實務
練習實施ニ關スル件申進

七月十五日其ノ教育ヲ終了シ任用（採用）ノ上配員セラレタル
首題海軍少尉中將來海上勤務ヲ主トスル者及海軍少尉候補生ニ
對スル實務練習ハ夫々其ノ實務練習規則ニ基キ左記ニ依リ實施
セシメラル豫定ニ有之候條了知相成度

記		番號	田身學校等別	區分	員數	實務練習期間
一	川柳突撃隊		豫備學生	約三三	至自	七月十五日 十月十五日
二			豫備生徒	約一六		
三	海軍氣象學校		豫備生徒	約一		自昭和二十年七月十五日 至昭和二十二年一月十五日
備考	狀況ニ依リ本實務練習期間中第一線部隊ニ配員セシメラル コトアリ					

事務所名	設置場所	事務開始日	記	事
第五十五魚雷訓練班	田浦海軍航空隊	六月二五日		
第四海軍燃料廠	福岡縣糟屋郡須惠村大字須惠須	六月二六日	旅行順路 鹿兒島本線香椎乘換精屋 線新原驛下車徒歩約十分	
第七二五海軍航空隊	横須賀海軍航空隊	七月一日		
第十三特別陸戰隊	横須賀海軍工作隊	同	郵便物發送先 横須賀局氣付ウ七三〇	
海防艦室津巖漿員事務所	横須賀市谷戸六所 會社浦賀造船株	同		

隊番號	設置場所	事務開始日	郵便物發送先
第五十六設營隊	横濱市戸塚區中區	同	
第五十二設營隊	宮崎縣南那珂郡津島町四千七番	同	電話 油津 一〇二番
第三十三設營隊	横濱市戸塚區中和國民學校内	七月五日	郵便物發送先 横濱市戸塚局氣付海軍隊内ウ七四三

○雜 款

○事務開始
 (參照) (教育機密第二三五號及第二三六號申進) 六月一日海軍公報第五〇二八號

秘

海軍公報

第五〇七三號

海軍大臣官房

昭和二十年七月十九日(木)

命令

官房軍機密第六八六號
 衛科指導部規程ニ依ル水雷、機雷、通信、電測及見張應急指導班ノ編制標準別表ノ通定ム
 昭和二十年七月十七日
 海軍大臣

(別表添)

(昭和二十年一月十六日秘海軍公報参照)

官房經機密第四一八號
 損害補償及慰籍内規中左ノ通改正ス
 昭和二十年七月十七日
 海軍大臣

調

第二條中「五千圓」ヲ「五萬圓」ニ改ム
 第三條中「千圓」ヲ「三千圓」ニ、「五百圓」ヲ「千五百圓」ニ、「百圓」ヲ「五百圓」ニ改ム
 (参照) 海軍機密會計法規類集三〇三頁

通牒

海入一第九號ノ三
 昭和二十年七月十六日
 海軍省人事局

秘海軍公報 第五〇七三號 昭和二十年七月十九日

部内各廳御中

新任技術科士官ノ電報符ニ關スル件申進
 昭和十九年九月三十日採用海軍技術見習尉官(技術生徒及二年現役專門學校出身者)中本年五月一日附海軍技術少尉ニ任命セラレタル者ノ電報符ハ秘海軍辭令公報甲第一七九六號任官號命ニ記載ノ番號ヲ付與セラレタルモノトス
 追テ未任官者ニ對スル電報符左記ノ通付與セララル

氏名	電報符	氏名	電報符
西村 治人	七六七五	内山 一雄	七六八五
富樫 良夫	七六七六	柳 川 孝	七六八六
大草 一夫	七六七七	松岡 光夫	七六八七
太田 保善	七六七八	益川 達之助	七六八八
金澤 友一	七六七九	吉本 啓一	七六八九
高橋 晟	七六八〇	船 道 弘	七六九〇
高木 信夫	七六八一	小 泉 篤	七六九一
田中 博昭	七六八二	小 泉 光夫	七六九二
辻村 勇夫	七六八三	小 脇 甲子郎	七六九三
村尾 孝明	七六八四	本 村 弘	七六九四

七八一

2567

武澤 哲	瀧澤 榮輔	高島 周夫	賀谷 輝徳	加藤 廣司	加藤 初之助	渡部 敏夫	荻原 三郎	荻野 敏雄	細川 昇	西村 茂樹	西 一男	石塚 富藏	池田 恒雄	伊藤 輝一	伊藤 壽男	杉田 孝	杉山 正友	三浦 忠
〇〇 七七一三	〇〇 七七二二	〇〇 七七一一	〇〇 七七一〇	〇〇 七七〇九	〇〇 七七〇八	〇〇 七七〇七	〇〇 七七〇六	〇〇 七七〇五	〇〇 七七〇四	〇〇 七七〇三	〇〇 七七〇二	〇〇 七七〇一	〇〇 七六九九	〇〇 七六九八	〇〇 七六九七	〇〇 七六九六	〇〇 七六九五	〇〇 七六九四
	菅井 正徳	品田 進市	佐藤 正治	佐藤 一夫	相澤 義一	河野 雄治	小黒 仁	小坂橋 喜子男	藤森 經也	福原 中夫	松、田 良一	藪 岡 力	山中 金吉	八木 田政智	上野 俊雄	名 張 隆政	中山 保雄	園 部 保
	〇〇 七七三一	〇〇 七七三〇	〇〇 七七二九	〇〇 七七二八	〇〇 七七二七	〇〇 七七二六	〇〇 七七二五	〇〇 七七二四	〇〇 七七二三	〇〇 七七二二	〇〇 七七二一	〇〇 七七二〇	〇〇 七七一九	〇〇 七七一八	〇〇 七七一七	〇〇 七七一六	〇〇 七七一五	〇〇 七七一四

軍需衣第三四號ノ三

昭和二十年七月十八日

海軍省 人事局
海軍省 軍需局

各海軍人事部、地方海軍人事部、御中

准士官以上正衣袴及禮衣袴等有償供出要領ノ件照會

首題ノ件ニ關シ軍需衣第三四號(五月十三日秘海軍公報)ヲ以テ通知セラレ居候處尙之方實施ニ關シ左記合置ノ上可然協力相成度

記

- 一 現役准士官以上等ニシテ勤務廳ニ取纏ムルコト困難ナルモノハ便宜最寄海軍軍需部又ハ地方海軍人事部ニ送付シ海軍人事部ニテハ之ヲ取纏メ海軍軍需部ニ轉送ノコト
- 二 海軍軍人遺家族ニシテ此ノ際本品ヲ供出希望ノモノハ在郷軍人ノモノニ準ジ有償ノコトトシ海軍軍需部又ハ地方海軍人事部ニ於テ受領シ海軍人事部ニテハ之ヲ海軍軍需部ニ轉送スルコト
- 三 在郷軍人會其ノ他ノ團體ニテ集荷セル供出品ニシテ輸送困難ト認メラルル場合ハ海軍軍需部又ハ地方海軍人事部ハ其ノ輸送方ニ關シ極力斡旋ヲ爲スコト
- 四 在郷軍人並ニ軍人遺家族ニシテ正裝、禮裝ノ外ニ不要軍服類ノ供出ヲ申出タルモノニ付テハ昭和十五年軍務機密第五三

號(別紙参照)ノ趣旨ニ依リ之ヲ寄附受ノコト

(別紙)

昭和十五年一月二十七日軍務機密第五三號

(軍務局長ヨリ各人事部長宛)

現下物資逼迫ノ實情ニ鑑ミ在郷准士官以上又ハ服役終了ノ下士官兵等ニシテ既ニ不要トナリタル軍服類ノ寄附ヲ申出タル向モ有之費管下ニ於テ同様篤志者有之候ハバ之ヲ受ケ海軍軍需品タル被服ニ利用又ハ再製致度意向ニ有之候條適當ナル方法ニ依リ當方ノ趣旨徹底方配慮ヲ得度但シ服役未了ノ下士官兵ハ召集、點呼等ニ際シ軍服ノ著用ヲ要スルニ付之ガ寄附ヲ受ケザル様致度
追テ寄附品ニハ寄附者ノ官階(元官職階)氏名及住所ヲ明記セル荷札ヲ附シ荷造運賃ハ軍需部負擔ノコトトシ差支無之候條在郷軍人會分會(海軍部)及私的海軍團體等ヲ利用スル等便宜ノ方法ニテ之ヲ取組メ最寄海軍軍需部ニ送付ノコトニ取計ハレ度

經豫機密第五號ノ七

昭和二十年七月十六日

海軍省 經理局長

各鎮守府、警備府參謀長
各海軍經理部、同支部長
海軍總隊、各總隊參謀長
同海軍總隊、同支部長
海軍上護衛參謀長
各特設海軍經理部長、同支部長
制限豫算ノ中央統制一時停止ニ關スル件申進

從來中央ニ於テ制限配付セル左記經費ハ當分ノ間之ヲ各鎮、各警、各艦隊等ニ於ケル統制ニ一任シ所要經費ハ支拂豫算ノ請求

秘海軍公報 第五〇七三號 昭和二十年七月十九日

ニ依リ令示セラルルコトト相成候條左記留意ノ上荷モ經費ノ濫費ニ陥ラザル様可然取計相成度

記

一 經費科目

臨時軍事費 臨時軍事費

應費

雜給及雜費

出張旅費(一般)

家屋其ノ他借料

舟車馬類借賃

演習費(一般)

演習費

艦營費

家屋其ノ他借料

舟車馬類借賃

教育諸費

檢定競技費(一般)

二 統制要領及配付基準

(イ) 統制要領

今回ノ改正ハ交通、通信ノ杜絶等ノ場合ヲ考慮スルト共ニ事務ノ簡素化ヲ圖ル爲中央ヨリノ配付制限並ニ中央ニ對スル協議等ヲ省略スルコトヲ主眼トセルモノニ付各鎮、警、艦隊司令部及經理部等ニ於ケル統制ハ概ネ從來ノ例ニ依リ可及的事務ノ簡素ヲ圖ルコト

(ロ) 關係各部ニ對スル配付ノ基準

(一) 應費、一般出張旅費、家屋其ノ他借料及舟車馬類借賃計數的ニ基準ヲ設ケルコト困難ナルモ眞ニ作戦遂行上已ムヲ得ザル經費ニ限定スルコトヲ目途トスルコト

(二) 一般演習費

七八三

2569

現狀ニ於テハ特殊ノ場合、特殊ノ部隊ニノミ必要ナルモノト認メラルルニ付原則トシテ所要ノ都度配付スルコトトシ其ノ基準ヲ左ノ通トスルコト

下士官兵 一人當 貳圓五拾錢以內(年額)

(三) 檢定競技費

本經費ハ昭和十七年一月二十二日內令第一二六號ニ依ル海軍檢定褒賞費及昭和十二年四月二日官房機密第一一四八號ニ依ル競技費以外ノ一般競技費ニシテ情況概ネ演習費ノ場合ト同様ト認メラルルモ特ニ事前ニ配付ヲ要スル場合ハ其ノ基準ヲ左ノ通トスルコト

競技參加員 一人當 參拾錢以內(年額)

三 通 報

毎年九月及三月末現在ニ於ケル既往六月分ノ關係各部ニ對スル配付額ヲ左ノ様式ニ依リ翌月末日迄ニ通報スルコト

計	所轄名	至自		年月		制限予算配付額
		年	年	月	月	
計	司令部	總費
		旅出張費

○ 雜 款

○ 事務開始

事務所名	設置場所	事務開始日	記
朝鮮海軍航空隊 (金剛部隊)	東萊郡釜山海軍航空隊内	六月二日	旅行船路 京釜線鎮浦驛下車
船用在勤海軍武官府	秋田縣南秋田郡船川港町新濱町	六月五日	旅行船路 東京方面 線奥羽本線秋田驛下車 船川驛下車 船川驛下車 船川驛下車
佐世保鎮守府南九州出張所	鹿兒島市吉野町磯區九六八五	七月一日	同上 並ニ外部ニ於ケル各機關事務 ヲ統制實施等ニ關スル事務 ノ關係ハトナリタリタニ付 旅費類ハトナリタリタニ付 旅費類ハトナリタリタニ付
西宮海軍航空隊 殘務整理班	兵庫縣西宮市上ヶ原大阪警備隊西宮派遣隊内	六月二日	六月三十日解隊
人吉海軍航空隊 殘務整理班	熊本縣球磨郡本上村人吉航空隊基地内	七月二日	七月十日解隊

○本日軍械秘海軍公報第一六四號(甲配付)發行セリ

○本日海軍公報發行セズ

(官房軍機密第六八六號別表)

備考	見張、應急術			通 信 術			電 測 術			機 雷 術			水 雷 術			術 科 別
	班 附	班 員	指 導 班 長	班 附	班 員	指 導 班 長	班 附	班 員	指 導 班 長	班 附	班 員	指 導 班 長	班 附	班 員	指 導 班 長	區 分
右指導班員ハ當分ノ間一部配員ノ外部下職員ヲ以テ之ニ充ツルモノトス	兵曹	中少尉(水)、兵曹長	中少佐	兵曹	大中尉(水) 技術科尉官	中少佐	兵曹	大中尉(水) 技術科尉官	中少佐	兵曹	大中尉(水) 尉官、准士官	中少佐	兵曹	大中尉(水) 尉官、准士官	中少佐	人 員
	八	四	一	一〇	三	二	一	一〇	三	二	一	一	四	一	一	員
	見張、應急 各四	見張、應急 各二		交信、兵器、暗號 各三ヲ含ム	交信、兵器、暗號 各一		通信主務參謀兼務	電測兵	電測專修	電測專修	情報主務參謀兼務		機雷主務參謀兼務		水雷主務參謀兼務	記 事

(昭和二十年七月十九日秘海軍公報)

2571

秘

海軍公報 第五〇七四號

昭和二十年七月二十日(金) 海軍大臣官房

○令 鑑

内令第五八六號
潜水隊編制中左ノ通改定セラレ

昭和二十年七月一日

海軍大臣 臣

第十六潜水隊ノ項中「波號第百三、」及「波號第百五」ヲ削ル
第三十四潜水隊ノ項中「呂號第五十號」ノ下ニ、「波號第百三、
波號第百五」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第五九五號

海防隊編制中左ノ通改定セラレ

昭和二十年七月三日

海軍大臣 臣

第十二海防隊ノ項中「榎木、」ノ下ニ「高根、」ヲ加フ

(内令提要卷一、七三頁参照)

内令第六〇一號

海防隊編制中左ノ通改定セラレ

昭和二十年七月五日

海軍公報 第五〇七四號 昭和二十年七月二十日

第一海防隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

海軍大臣 臣

第二海防隊

屋代、保高、波太、干珠、第二號、第三十四號、第
八十二號

(内令提要卷一、七三頁参照)

内令第六〇八號

特設船舶警戒部令中左ノ通改正セラレ

昭和二十年七月十日

海軍大臣 臣

別表中「室蘭、」ノ下ニ「七尾、」ヲ、「境」ノ上ニ「船川、」
ヲ加フ

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ二頁参照)

内令第六〇九號

特設船舶警戒部處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十日

海軍大臣 臣

新	湯	船舶警戒部新湯支部
伏	木	船舶警戒部伏木支部

ヲ

七八五

2572

船川	船舶警戒部船川支部
新潟	船舶警戒部新潟支部
伏木	船舶警戒部伏木支部
七尾	船舶警戒部七尾支部

ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ四頁参照)

内令第六一〇號

昭和十三年内令第三四一號地方在勤海軍武官ノ在勤地ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和二十年七月十日

海軍大臣

臨時地方在勤海軍武官ノ在勤地名ノ部中「伏木」ノ下ニ「七尾」ヲ加フ

(内令提要卷一、一八ノ六頁参照)

内令第六一一號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル

昭和二十年七月十日

海軍大臣

佐世保鎮守府ノ部中

福岡海軍航空隊、第二出水海軍航空隊、人吉海軍航空隊、串良

海軍航空隊及鹿兒島海軍航空隊ノ各項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第六一二號

海軍練習航空隊ニ指定ノ件申左ノ通改正セラル

昭和二十年七月十日

海軍大臣

「福岡海軍航空隊」
「第二出水海軍航空隊」
「人吉海軍航空隊」
「串良海軍航空隊」
「鹿兒島海軍航空隊」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四二ノ一頁参照)

内令第六一三號

昭和十八年内令第三〇五五號海軍練習航空隊ノ所管事項ノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年七月十日

海軍大臣

第一河和海軍航空隊等ノ部中「人吉海軍航空隊、第二出水海軍航空隊、」及「串良海軍航空隊」ヲ、土浦海軍航空隊等ノ部中「福岡海軍航空隊、」及「鹿兒島海軍航空隊、」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四三頁参照)

内令第六一四號

昭和十七年内令第三〇六號海軍工廠ノ分工場ヲ置ク地、呼稱及

分掌事項ノ件中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十日

海軍大臣

山口縣宇部市ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

富山縣富山市 舞鶴海軍工廠 主トシテ艦船及船舶ノ修理ニ關スル事項

(内令提要卷一、三〇ノ四頁参照)

内令第六一五號

當分ノ間大湊警備府ニ置クベキ補缺員タル特務士官及准士官ハ十五人以内トス

昭和二十年七月十日

海軍大臣

官房軍第三五六號

昭和十九年官房軍第一二五八號(海軍兵學校分校呼稱等ノ件)中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十八日

海軍大臣

第一項中「針尾海兵團」ヲ「防府海軍通信學校」ニ、「針尾分校」ヲ「防府分校」ニ改ム

(諸例則卷一、五八〇頁参照)

官房機密第四二〇號

當分ノ間昭和十七年官房機密第一一八八二號艦船部隊等ノ經費

秘海軍公報 第五〇七四號 昭和二十年七月二十日

等ノ取扱特例中第五條、第十一條、第十一條ノ二及第十四條ノ規定ニ依ル海軍大臣ヘノ報告ハ之ヲ省略スルコトヲ得

昭和二十年七月十九日

海軍大臣

(参照) 海軍機密會計法規類集一頁

官房人機密第四五八號

特修兵養成ニ關スル特例中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十八日

海軍大臣

第十三條第一項但書中「掌信號兵(見張專修ノ者ヲ除ク)、掌信號兵及」ヲ削ル

第十六條表ヲ左ノ如ク改ム

衛科別	問題作製擔任區分
砲衛測的衛	横須賀海軍砲術學校長
水雷衛、機雷衛、水測衛	海軍水雷學校長
運用衛、信號衛	船舶警戒部長
氣象衛	海軍氣象部長
電信衛、暗號衛	第一聯合通信隊司令官
電測衛	海軍電測學校長
兵器整備衛、飛行機整備衛	第二十聯合航空隊司令官

七八七

機關衛、内火衛、電機衛	大楠海軍機關學校長
潛統衛	海軍潜水學校長
工作衛	横須賀海軍工作學校長
衛生衛	戸塚海軍衛生學校長 (賀茂海軍衛生學校長ト協議ス)
經理衛、衣糧衛	海軍經理學校長

第二十一條中「銓衡シ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ」ヲ「銓衡ノ上之ニ」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

鎮守府司令長官ハ前項ノ規定ニ依リ特技章ヲ付與シタルトキハ特修別(更ニ專修別ニ分ツ)、高等科又ハ普通科特技章別ニ區分シ特技章付與者員數ヲ速ニ海軍大臣ニ報告スルモノトス

附則

本令ハ昭和二十年七月十五日ヨリ之ヲ適用ス但シ第二十一條ノ改正規定ハ昭和二十年六月銓衡試驗實施ノモノヨリ之ヲ適用ス

(昭和十九年九月二十九日本欄参照)

官房經第四二〇號

當分ノ開支出官支拂豫算中目、節ノ金額ノ彼此増減ヲ要スルトキハ海軍會計規程第十七條又ハ海軍作業會計規程第六條ノ規定ニ拘ラズ大正十二年勅令第三百五號所定ノ費途ニ該當スルモノノ外之ヲ專行スルコトヲ得前項ノ場合支出官ハ一般會計及臨時軍事費特別會計ニ在リテハ毎年度七月、十月及一月並ニ翌年度四月中ニ各前三月分ヲ、海軍工廠資金會計及海軍作業會計ニ在

リテハ毎年度末當該年度分ヲ總括シ支拂豫算増減更定報告書又ハ支拂豫算流用報告書ニ依リ海軍省經理局長ニ報告スベシ
昭和二十年七月十九日

海軍大臣

(參照) 海軍會計法規類集一卷四一頁、九八頁及六六四頁

官房經第四二一號

當分ノ開海軍會計規程別表第四(甲)備考第一號又ハ海軍工廠資金會計規程別表第三ノ甲備考ノ規定ニ拘ラズ收入官吏ノ任免報告ハ毎年四月及十月ノ各月十日迄ニ各前六月分ヲ取纏メ報告スルコトヲ得
昭和二十年七月十九日

海軍大臣

(參照) 海軍會計法規類集一卷五三頁及六八四頁

○ 通 牒

軍務一機密第六三〇號

昭和二十年七月十九日

海軍省軍務局長

- 海軍總隊參謀長
- 各鎮守府參謀長
- 各警備府參謀長
- 海軍航空本府總務部長
- 海軍艦隊本府參謀長
- 海軍救難本部部長

殿

海軍編成擔任ニ關ル國民義勇戰隊ノ編成及
所屬ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ國民義勇戰隊統率令及昭和二十年五月五日軍務二機密第四四號「義勇戰隊及國民義勇隊編制、指導要綱」ニ依ルノ他左記ニ依リ編成ノコトニ取計相成度

記

一 一般ノ國民義勇戰隊員タルベキモノ
海軍作戰擔任區域内ニテ國民義勇戰隊ヲ編成シ各鎮守府警備府ニ屬セシム

二 海軍各部ノ職員

昭和二十年官房第三一三號「海軍各廳ニ於ケル國民義勇隊編成ノ件」ニ依ル國民義勇隊ヲ其ノ儘義勇戰隊ニ轉移ス

三 國家船舶ノ乘員（豫備船員及之方統理ノ爲必要トスル所在海運局及船舶運營會ノ職員ヲ含ム）

船舶義勇隊ヲ編成シ海運總監部ニ屬セシム（中央ニテ一括編成中）

四 特殊漁船（哨戒ニ從事スル傍ラ漁業海獸獵獲ヲ營ム漁船及海軍ノ保護ノ下ニ出漁セシムル北洋漁業船等ヲ謂フ）ノ乘員及要員

各鎮守府警備府ニ於テ特殊漁船義勇戰隊ヲ編成シ所管ノ鎮守府警備府ニ屬セシム

五 救難關係要員
船舶救難義勇戰隊ヲ編成シ所在地ノ警備ヲ掌ル鎮守府警備

府ニ屬セシメ業務ニ關シテハ船舶救難本部長ノ指揮ヲ受ク
六 大日本航空會社第二運營局（海軍徵備航空輸送部）職員
航空義勇戰隊ヲ編成シ海軍航空本部長ニ屬セシム

七 前各號ノ國民義勇戰隊ノ轉移ノ時期ハ原則トシテ中央ノ指示ニ依ル
追テ記第三號乃至第六號ノ國民義勇戰隊ニ付テハ七月下旬頃轉移ヲ下令セラルル豫定ニ付各戰隊所屬ノ長官ニ於テ可然準備相成度

經給機密第一號ノ二六

昭和二十年七月十七日

海軍省 經理局

關係各廳御中

海軍機密會計法規類集及同加除紙ノ取扱ニ關スル件中改正ノ件通牒

昭和十八年經給第一號ノ一六中左ノ通知改正致候
第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 各海軍經理部ニ於テハ帳簿ヲ設ケ其ノ受拂ヲ明ニスルコト

（參照）海軍機密會計法規類集三〇八頁

經給機密第三號ノ五五

昭和二十年七月十九日

海軍省 經理局長

海軍公報 第五〇七四號 昭和二十年七月二十日

七八九

2576

關係各支出官、資金前渡官吏殿
 日本銀行代理店設置ノ件通知
 國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店左記ノ通設置セラレ之方事務
 フ取扱フコトト相成候
 記
 千葉縣市原郡「鶴舞町」

經豫第三號ノ一〇〇
 昭和二十年七月十九日

海軍省經理局長

各支出官殿
 出納官吏ノ任免報告ニ關スル件通牒
 當分ノ間昭和十四年五月經調第四七號照會ニ拘ラス首題報告ハ
 毎年四月及十月ノ各月十日迄ニ各前六月間ニ於ケル分ヲ取纏メ
 報告シ差支無之候
 (參照) 海軍會計法規類集一卷六〇〇頁

○雜・款

○事務開始

九州海軍航空隊 岩川派遣隊	鹿兒島縣嶺南郡 松山村	五月八日	旅行順路 志布志線大隅松山驛下車 郵便物發送先 鹿兒島縣嶺南郡松山村 イニ二七
------------------	----------------	------	---

舞鶴海軍警備隊 美保派遣隊	鳥取縣西伯郡大 篠津村	六月三日	小松海軍航空隊及美保海軍 航空隊ハ六月三十日附隊 郵便物發送先 鳥取縣西伯郡美保派遣隊 石川縣仁沼郡新原 同 小松派遣隊
同 小松派遣隊	石川縣仁沼郡篠 原村新原	六月三日	同 小松派遣隊
内海海軍航空隊 岩國分遣隊	山口縣岩國市岩 國航空基地内	七月三日	旅行順路 山陽線岩國驛下車徒歩約 郵五分送先 山口縣岩國市岩國航空基 地内
佐世保潜水艦基 地隊分遣隊 (大賀部隊)	鹿兒島縣肝屬郡 垂水町海濱	七月五日	旅行順路 鹿兒島線下車 毎日九〇〇鹿兒島市營 棧橋發乘水行定期船アリ

○本日海軍公報發行セス

○正誤
 六月二十五日附秘海軍公報第五〇五二號通牒欄經製機密第一號
 別表第二日用品類中「洗濯紐」ヲ削除、七月一日附同第五〇五
 八號通牒欄經製機密第三號海軍省經理局統制契約品中廢紙ノ行
 摘要欄「一東二十枚」ハ「一東二百枚」ノ誤

秘

2578

海軍公報 第五〇七五號

昭和二十年七月二十一日(土) 海軍大臣官房

○令 達

内令第六一六號

横須賀鎮守府練習兼警備艦

軍艦 大 淀

舞鶴鎮守府練習兼警備艦

軍艦 利 根

右役務ヲ解カル

横須賀鎮守府豫備艦

軍艦 大 淀

佐世保鎮守府豫備艦

軍艦 葛 城

舞鶴鎮守府豫備艦

軍艦 利 根

右特殊警備艦ト定ム

昭和二十年七月十日

海軍大臣

内令第六一七號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項電纜敷設艇ノ欄「初島(横)」ヲ削ル
佐世保防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百號」ヲ削ル
五號(佐)、「第二百三十三號(佐)」及「第二百三十四號(佐)」ヲ削ル
ヲ、電纜敷設艇ノ欄「大立(佐)」ヲ削ル
紀伊防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第九十七號(坂)」ヲ削ル
第二遣支艦隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百十號(佐)」ヲ削ル
第二十三特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第一號(佐)」ヲ削ル
第二十五根據地隊ノ項掃海特務艇ノ欄「第一百五號(佐)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第六一八號

第一百一號驅潛特務艇

第二百五號驅潛特務艇

第二百三十三號驅潛特務艇

第二百四十四號驅潛特務艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

第二百十號驅潛特務艇

右本籍ヲ高雄警備府ト定メタル處之ヲ解ク

海軍公報 第五〇七五號 昭和二十年七月二十一日

七九一

<p>第九十七號 驅潛特務艇 右本籍ヲ大阪警備府ト定メタル處之ヲ解ク 第百五號 掃海特務艇 右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク 電纜敷設艇 初 島 右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク 同 大 立 右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク 昭和二十年七月十日 海 軍 大 臣</p>	<p>第四十九號 掃海隊ノ項中「第十七日之出丸」ヲ削ル (内令提要卷三、一五〇頁参照) 内令第六二三號 特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラレ 昭和二十年七月十日 海 軍 大 臣</p>	<p>内令第六一九號(軍極秘海軍公報第一六五號(乙配付)ニ掲載) 特設驅潛隊編制中左ノ通改定セラレ 昭和二十年七月十日 海 軍 大 臣</p>	<p>内令第六二〇號 特設驅潛隊編制中左ノ通改定セラレ 昭和二十年七月十日 海 軍 大 臣</p>	<p>内令第六二二號 特設掃海隊編制中左ノ通改定セラレ 昭和二十年七月十日 海 軍 大 臣</p>
<p>第一監視艇隊ノ項中「第一大神丸」、「第十二明神丸」及「第十二事代丸」ヲ削ル 第二監視艇隊ノ項中「第三五十鈴丸」ヲ削ル 第三監視艇隊ノ項中「第六朝洋丸」及「網地丸」ヲ削ル 第四監視艇隊ノ項中「白鳥丸」ヲ削ル (内令提要卷一、一五一頁参照)</p>	<p>内令第六二三號 昭和十八年内令第二五六六號別表中左ノ通改正ス 昭和二十年七月十日 海 軍 大 臣</p>	<p>内令第六二三號 昭和十八年内令第二五六六號別表中左ノ通改正ス 昭和二十年七月十日 海 軍 大 臣</p>	<p>横須賀防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「卑南丸(横)」ヲ削ル 伊勢防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「五號宮嶽丸(横)」ヲ、特設掃海艇ノ欄「第三鵜丸(横)」ヲ、特設監視艇ノ欄「右明丸(横)」ヲ削ル 女川防備隊ノ項特設掃海艇ノ欄「東郷丸(横)」ヲ、特設監視艇ノ欄「第二幸昌丸(横)」ヲ削ル</p>	<p>内令第六二三號 昭和十八年内令第二五六六號別表中左ノ通改正ス 昭和二十年七月十日 海 軍 大 臣</p>

秘海軍公報 第五〇七五號 昭和二十年七月二十一日

七九四

<p>右特設掃海艇トシ舞鶴鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク 同 第十七日之出丸 漁船 寶成丸 同 第六朝洋丸 同 第一大神丸 同 第十二明神丸 同 第三十五鈴丸 同 網地丸 同 第二幸昌丸 同 有明丸 同 白鳥丸 同 第十二事代丸</p>	<p>右特設監視艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク 同 第十三長運丸 同 日出丸</p>	<p>右特設監視艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク 汽船 華山丸 右特設運送艦トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク 昭和二十年七月十日 海軍大臣</p>	<p>横須賀鎮守府在籍 第二百四號海防艦 右警備海防艦ト定メラル 昭和二十年七月十一日 海軍大臣</p>	<p>官房人機密第四六一號 本年七月十日現在第四警備隊職員タル者ハ特ニ發令セララルモ ノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ第六警備隊ノ相當職員ニ補命セラ レタル義ト心得ベシ 昭和二十年七月十日 海軍大臣</p>	<p>官房人機密第六七八號 當分ノ間横須賀海軍工作學校長ハ官房教機密第三〇九號別紙第 五號(口)項ニ依ル生産協力實施上必要ト認ムル場合ニ於テハ各方 面派遣人員ノ指揮官タルベキ大中佐ヲシテ所轄長ニ準ジ其ノ指 揮下ニ在ル者ノ身上其ノ他一般事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得 昭和二十年七月十五日 海軍大臣</p>
--	--	--	--	--	--

内令第六二五號
第二百四號海防艦
右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

記

海軍對潛學校	海軍水雷學校
沼津海軍工作學校	横須賀海軍工作學校

官房人機密第四六三號

本年七月十五日現在第百十二驅潛隊職員タル者ハ特ニ發令セラ
ルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ伊勢防備隊附ニ補命セラレ
タル義ト心得ベシ

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

○週 際

軍務一機密第六三四號

昭和二十年七月二十日

海軍省軍務局長
海軍省醫務局長

關係各廳長殿

地下壕居住(作業)ノ保健衛生指導ニ關スル
件申進

首題ノ件ニ關シテハ各部共銳意研究調査ノ上適切ナル指導實施
ノコトト認メラルモ之ガ強化徹底ハ刻下ノ緊要事ト認メラレ
候條別途送付ノ醫務機密第一三七號指導要領ヲ活用一段下之方

海軍公報 第五〇七五號 昭和二十年七月二十一日

徹底ヲ期セラレ度

○雜 款

○廳舎、部隊移轉

廳舎、部隊名	移 轉 先	移轉月日	記 事
第三海軍衣糧廠	京城府、鐵路區貫 鐵町二九六	五月二十日	電話 京城本局 〇九〇三〇二 〇〇〇〇〇〇 八八八二二二 交換
小樽港海警備隊	小樽市界町十一 番地	七月七日	電話 四九三三番、四九五八番
第十三航空戰隊司令部	奈良縣山邊郡朝 奈村大和海軍航 空隊内	七月三日	郵便物發送先 奈良縣磯城郡柳本局氣付 ウノ六三八
第十二航空艦隊司令部	第一千歲基地内	七月二日	第十二航空艦隊關係書類ハ 同基地宛送付ノコト
吳海軍設營隊	廣島縣吳市廣町	六月二十七日	旅行順路 吳線廣縣下車西へ一丁 郵便物發送先 廣島郵便局氣付 ウ七壹壹
吳防備隊	廣島縣加茂郡川 尻	七月二日	郵便物發送先 川尻郵便局氣付吳防備隊
事務所名	設 置 場 所	事務開始 月 日	記 事
第五百二十二設 營隊	鹿兒島縣肝屬郡 串良町中山	六月一日	旅行順路 古江線鹿屋驛下車徒歩約 四十分郵便先 郵便物發送先 鹿屋局氣付 海軍五二二 四中部隊

○事務開始

七九五

<p>第五千八百設營 班內</p> <p>橫濱市戸塚區中 田町横須賀海軍 施設部教導設 營</p> <p>七月一日</p> <p>旅行順路 横須賀線戸塚下車徒歩 約五十分 郵便物送先 横須賀市戸塚郵便局氣付 管内ウ七四七</p>	<p>第五千二百十設 營隊 (大屋部隊)</p> <p>長崎縣東彼杵郡 川棚町中組郷</p> <p>同</p> <p>郵便物送先 長崎縣東彼杵郡川棚町中 組郷川棚局氣付</p>	<p>第五百三十八設 營隊</p> <p>舞鶴市公文名舞 鶴海軍施設部第 一設營班内</p> <p>同</p> <p>電話(施)一八〇番 郵便物送先 舞鶴市公文名舞鶴施設部 第一設營班内山根部隊</p>	<p>第五百六船船防 空隊 (ウノ四八三)</p> <p>新潟在勤海軍武 官府内</p> <p>七月九日</p> <p>郵便物送先 新潟在勤海軍武官府氣付 ウノ四八三</p>	<p>佐世保鎮守府聯 合特別陸戰隊司 令部</p> <p>佐世保海軍警備 隊内</p> <p>七月二日</p>	<p>佐世保鎮守府 第七特別陸戰隊 隊内</p> <p>針尾警備隊内</p> <p>七月二日</p>	<p>同 第七特別陸戰隊 隊内</p> <p>針尾警備隊内</p> <p>七月二日</p>	<p>同 第七特別陸戰隊 隊内</p> <p>針尾警備隊内</p> <p>七月二日</p>	<p>○轉勤者赴任先 當隊へノ轉勤者ハ左ニ依ラレ度</p> <p>第二〇三海軍航空隊 戰團第三〇九飛行隊 戰團第三一二飛行隊 戰團第三〇三飛行隊</p> <p>福岡縣築上郡築城村築城航空基地 福岡縣築上郡柳ヶ浦宇佐航空基地</p> <p>追テ旅費ハ同基地迄前金拂(家族移轉料ハ横須賀市)ノコトニ處理相成度</p> <p>(第二〇三海軍航空隊)</p> <p>七月十日第七艦隊、第一護衛艦隊分離ニ伴ヒ自今轉勤者ハ左ニ依リ赴任セシメラレ度</p> <p>第七艦隊司令部 福岡縣門司市(門司港驛下車) 第一護衛艦隊司令部 京都府舞鶴市</p> <p>(第七艦隊司令部) (第一護衛艦隊司令部)</p> <p>自今當隊へノ轉勤者ハ鳥取縣西伯郡美保航空基地(境線大津津驛下車)ニ向テ赴任セシメラレ度</p> <p>(第七〇一海軍航空隊) (攻撃第一〇〇三飛行隊)</p> <p>○本日軍機秘海軍公報第一六五號(乙配付)發行セリ 配付先 各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、同支廠</p> <p>○本日海軍公報發行セズ</p>
--	--	---	---	---	--	---	---	--



海軍公報 第五〇七六號

昭和二十年七月二十二日(日)
海軍大臣官房

命令

官房機密第四二三號

海軍戰時特例給與規則中左ノ通改正ス

昭和二十年七月二十日

海軍大臣

第六條中「貸與ニ代ヘ」ノ下ニ「第三表ニ依リ」ヲ加フ

第七條 海軍給與令第六十九條ニ規定スル扶助金(以下單ニ扶助金ト稱ス)ハ同令施行細則第七十五條乃至第八十條ノ規定ニ拘ラス本人ニ之ヲ支給ス

第七條ノ二 前條ノ扶助金ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス
一 家族ヲ有スル志願兵初メテ入團若ハ入隊シタルトキ、家族ヲ有スル徵兵志願兵籍ニ入リタルトキ又ハ單身ノ志願兵籍ニ在ル者(應召中ノ者ヲ除ク)家族ヲ有スルニ至リタルトキハ其ノ日ノ屬スル月ヨリ

二 單身ト爲リタルトキ、特務士官若ハ准士官ニ任官、進級シタルトキ、豫備役、免官、免役ト爲リ若ハ歸休ヲ命ゼラレタルトキ、六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ死亡シタルトキハ其ノ日ノ屬スル月分迄

前項第一號ノ家族トハ本人ト同一戸籍内ニ在ル親族ヲ謂フ

第七條ノ三 扶助金ハ四月ヨリ翌年三月迄ノ分ヲ三月一日本人

ノ所屬スル艦船部隊其ノ他各部(三月一日所屬シタル艦船ニ在リテハ舊勤務艦)ニ於テ支給ス但シ前條第八十條ノ規定該當スルトキハ其ノ際之ヲ支給ス

第七條ノ四 海軍給與令施行細則第八十二條乃至八十三條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第十二條第四項中「又ハ殘務整理部ノ所屬鎮守府所在地ノ海軍軍需部長」ヲ削ル

第六表備考第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
一ノ二 海軍主計科及技術科武官任用及服役特例第一條乃至第二條ノ規定ニ依リ士官、特務士官又ハ准士官ニ任用セラレ同特例第三條ノ二ノ規定ニ依リ豫備役ニ服センラレタル者ノ初任手當ハ二百圓トス

前項ノ規定ニ該當スル者初メテ召集セラレ勤務ニ服スルトキハ更ニ初任手當トシテ二百圓ヲ支給ス

第九表ヲ別表ノ如ク改ム

附則
第六表ノ改正規定ハ昭和十九年三月一日以後ノ給與ニ付第七條乃至第七條ノ三ノ改正規定ハ昭和二十年四月以降支給スベキ扶助金ニ付之ヲ適用ス但シ本令適用ノ際既ニ海軍給與令施行細則第八十條ノ規定ニ依リ支給済ノ扶助金ニ在リテハ仍從前ノ規定

第七九七

海軍公報 第五〇七六號 昭和二十年七月二十二日

<p>二依ル (別表添) (参照) 海軍機密會計法規類集一一頁</p>		<p>○遷 讓</p>		<p>軍需糧第三九號 昭和二十年七月二十一日 海軍省軍需局長</p>		<p>關係各廳長殿 洗米機(器) 使用禁止ニ關スル件照會 食糧事情極度ニ逼迫セル現情勢下ニ於テハ糧食品榮養價ノ確保ニ努ムルハ特ニ緊要ナル處從來使用セラレタル洗米機(器)ニ依ル洶洗ハ米穀ノ榮養成分ノ相當量ヲ水中ニ流失スルヲ以テ之ガ使用ヲ嚴禁シ無洶洗炊飯ニ依ルロトニ取計相成度</p>		<p>○事務開始</p>		<p>事務所名 設置場所 事務開始月日 記 事</p>	
<p>第四陸上輸送隊</p>		<p>土浦市大房(第一航空廠内)</p>		<p>六月一日</p>		<p>旅行順路 常磐線荒川沖下車徒歩約二十分 郵便物發送先 茨城縣稻敷郡荒川沖局氣付 第四陸上輸送隊</p>		<p>○本日海軍公報發行セズ</p>		<p>○本日軍機秘海軍公報第一六六號(乙配付) 發行セリ 配付先 各司令部、各海軍軍需部(特設ヲ含ム)、各海軍經理部(特設ヲ含ム)、各突擊隊、第一、第二各海軍衣糧廠、海軍經理學校(品川本校)、海軍水雷學校、海軍潜水學校、同柳井分校、同七尾分校、大楠海軍機關學校、同大竹分校</p>	
<p>隊津方面特別根拠地清津派遣</p>		<p>一〇番地</p>		<p>六月二〇日</p>		<p>郵便物發送先 成鏡北清津津府日賀田町 隊津方面特別根拠地</p>		<p>東北地方海軍部</p>		<p>仙臺市表小路一</p>	
<p>大阪在勤海軍武官府</p>		<p>大阪府北區堂島</p>		<p>七月二日</p>		<p>旅行順路 大阪驛ヨリ南(約五丁徒歩約十分)</p>		<p>豐原地方在勤海軍武官府</p>		<p>豐原市東二條南八丁目二十二番地(舊大日本婦人會本部)</p>	
<p>豐原地方在勤海軍武官府</p>		<p>豐原市東二條南八丁目二十二番地(舊大日本婦人會本部)</p>		<p>七月三日</p>		<p>豐原地方在勤海軍武官府</p>		<p>豐原地方在勤海軍武官府</p>		<p>豐原市東二條南八丁目二十二番地(舊大日本婦人會本部)</p>	

(官房經機密第四二三號別表)

第九表 被服物品

(昭和二十年七月二十三日祕海軍公報)

考 備	被服物品											
	半	飾	雨	行	脚	外	釧	軍	略	略	品	
一 本表ノ範圍内ニ於テ給與スル被服物品ノ代價ノ合計額ハ第八表ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ズ 二 本表ノ被服物品ヲ受クル者ニ對シ所轄長又ハ海軍經理部長必要アリト認メタルトキハ第八表ノ金額ヨリ本表ノ被服物品ノ代價ヲ控除シタル金額ノ範圍内ニ於テ臨時手當ヲ併給スルコトヲ得	靴	緒	衣	季	絆	套	帶	刀	帽	袴	名	
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	數
	組	個	個	個	組	個	個	個	個	組	量	
		肩	襦	夏	夏	袴	襦	手	靴	編	品	
			青	袴	襦			袋	下	上	名	
		章	色	下	袴	下	袴		靴	靴	數	
		一	シ	二	二	二	二	一	四	一	量	
		組	ヤ	個	個	個	個	組	組	組		
			ツ	個	個	個	個					

2586

秘

海軍公報 第五〇七七號

海軍大臣官房

昭和二十年七月二十三日(月)

○令 達

内令第六二六號

海軍工廠處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十二日

海軍大臣 臣

第十條第二項ヲ左ノ如ク改ム

火工部ハ火工兵器ノ造修、第二火工部ハ化學兵器ノ造修ニ關スルコトヲ掌ル

(内令提要卷一、三〇頁参照)

内令第六二七號

波號第二百十九潜水艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府卜定メラル

昭和二十年七月十二日

海軍大臣 臣

内令第六二八號

波號第一百十一潜水艦

右本籍ヲ吳鎮守府卜定メラル

昭和二十年七月十三日

海軍大臣 臣

内令第六二九號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ正セラル

昭和二十年七月十五日

海軍大臣 臣

横須賀鎮守府ノ部中東京海軍航空隊ノ項ヲ削ル

吳鎮守府ノ部中浦戸海軍航空隊、松山海軍航空隊及宇和島海軍航空隊ノ各項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第六三〇號

海軍練習航空隊ニ指定ノ件申左ノ通改正セラル

昭和二十年七月十五日

海軍大臣 臣

「東京海軍航空隊」及「浦戸海軍航空隊」ヲ削ル

「松山海軍航空隊」及「宇和島海軍航空隊」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四二ノ二頁参照)

内令第六三一號

昭和十八年内令第二〇五五號海軍練習航空隊ノ所管事項ノ件申

秘海軍公報 第五〇七七號

昭和二十年七月二十三日

七九九

2587

左ノ通告正ス

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

百里原海軍航空隊等ノ部中「東京海軍航空隊、」ヲ削ル
土浦海軍航空隊等ノ部中「松山海軍航空隊、」ヲ、「浦戸海軍航
空隊、」及「宇和島海軍航空隊」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四四頁参照)

内令第六三三號

海軍燃料廠處務規定中左ノ通告正ス

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

第九條及第十三條中「第二探炭部」ノ下ニ「第三探炭部」ヲ
加フ

(内令提要卷一、三〇ノ三〇頁参照)

内令第六三三號

海軍燃料廠ヲ置ク地及同廠ニ置ク各部、課等ノ件申左ノ通告正
セラル

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

福岡縣糟屋郡第四海軍燃料廠ノ項中「第二探炭部」ノ下ニ「第
三探炭部、」ヲ加フ

備考中「羽ノ浦町、」ノ下ニ「同廠第三探炭部ハ之ヲ大阪府
泉北郡池田村ニ、」ヲ加フ

(内令提要卷一、三〇ノ三一頁参照)

内令第六三四號

昭和二十年内令第三四七號ノ三特設海軍燃料廠補給部ノ出張所
ヲ置ク件申左ノ通告正ス

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

末尾ニ左ノ一項ヲ加フ

大阪府大阪市 特設海軍燃料廠補給部大阪出張所

(昭和二十年五月十五日秘海軍公報参照)

内令第六三五號

海軍航空軍備資料調査班規程左ノ通定ム

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

海軍航空軍備資料調査班規程

第一條 海軍航空本部總務部ニ海軍航空軍備資料調査班ヲ置ク
第二條 海軍航空軍備資料調査班ハ海軍ノ航空軍備ニ必要ナル
航空機其ノ他ノ兵器及人員等ノ實情ヲ調査シ關係海軍各部ニ
之ヲ提示シ以テ航空軍備ノ整頓及作戰ノ實施ヲ容易ナラシム
第三條 海軍航空軍備資料調査班ニ班長、班員及班附ヲ置ク其

ノ組織別表ノ如シ

第四條 班長ハ海軍航空本部總務部長ノ命ヲ承ケ班務ヲ總理ス

第五條 班員ハ班長ノ命ヲ承ケ調査ニ從事ス

前項ノ外海軍航空本部員(總務部)タル班員一人ハ調査主任トシテ事務ノ統合ニ當ルモノトス

第六條 班附ハ上官ノ命ヲ承ケ調査事務ニ從事ス

(別表添)

官房需機密第二五五號

大東亞戰爭中海軍軍需部又ハ艦船部隊ニ於テ規定ノ艦營需品ヲ

購買シ難キトキハ艦營需品經理規程第二條ノ規定ニ拘ラズ適宜

ノ品種ニ依ルコトヲ得

昭和二十年七月二十二日

海軍大臣

○通牒

經物第二四號

昭和二十年七月二十一日

海軍省經理局長
海軍艦政本部長

關係各廳長殿

陸上貯藏豫備品ニ關スル件通牒中改正ノ件通牒

昭和十三年經物第二一六號通牒首題ノ件左記一中「此ノ場合ニ

ハ豫メ上申認許ヲ要ス」ヲ「但シ罐管、復水器管及補機共通豫

海軍公報 第五〇七七號 昭和二十年七月二十三日

備品ニ付テハ豫メ艦政本部長ニ協議ヲ要ス」ニ改ム

(參照) 會計法規類集第四卷六九頁

○雜款

○練習生教育中止ニ件フ銓衡試驗ニ依ル特技章付與ノ件

本校第四十六期高等科經理術及第十一期高等科衣箱術練習生

(四月二日入校五月一日官房教機密)タリシモノハ銓衡試驗ニ依

リ夫々當該高等科特技章ヲ付與セラレ候條左記ニ依リ處理相成

度

記

一 付與年月日 昭和二十年五月二日

二 履歴表記註要領

三、五、一 高等科 經理術 復章付與 (銓衡) (二十年官房人機密) 經校

(海軍經理學校)

○廳舍、部隊移轉

廳舍、部隊名 移轉先 移轉月日 記 事

第二十一陸上輸 福岡市東區箱町 六月二〇日 旅行照路

送隊 明光寺内 六月二〇日 郵便物送先

第三十一陸上輸 舞鶴市敷島國民 六月二五日 郵便物送先

送隊 學校内 郵便物送先 海軍仁部

八〇一

<p>海上護衛總司令 部附第五〇七船 船防空隊(假稱)</p> <p>富山縣高岡市伏木町中通一番地 木町中 說教場</p> <p>七月三日</p> <p>旅行順路 北陸線高岡驛米見線乘換 伏木驛下 富山縣高岡市伏木町伏木 港灣警備隊氣付ウ四八貳</p>	<p>神戸在勤海軍武 官府</p> <p>神戸市生田區明 石町一九</p> <p>同</p> <p>旅行順路 省線元町驛下車南二丁徒 歩約五分</p>	<p>第五百七十二設 營隊</p> <p>青森縣下北郡</p> <p>七月七日</p> <p>郵便物送先 青森縣下北郡大畑局氣付 ウ六貳八</p>	<p>德島海軍航空隊 本部</p> <p>德島縣板野郡撫 養町木津</p> <p>七月二〇日</p> <p>旅行順路 宇高連絡線經由高徳線池 谷乘換、撫養線教會前下 郵便物送先 德島縣板野郡撫養町木津</p>	<p>第五十三航空戰 隊司令部</p> <p>奈良縣山邊郡丹 波市町海軍第二 本部</p> <p>七月三日</p> <p>旅行順路 櫻井線(省線)丹波市驛 下車徒歩一、三秊 郵便物送先 奈良縣山邊郡丹波市局氣 付ウ六三九</p>	<p>横須賀海軍工作 學校</p> <p>横須賀海軍通信 學校跡</p> <p>七月六日</p>
--	---	---	--	--	--

追テ旅費支給上ノ起終驛ハ從來通東海道線藤枝驛乘換藤相電
鐵上新田驛下車トシ前金拂ノコトニ取計ハレ度
(東海海軍航空隊)

○本日軍極秘海軍公報第一六七號(乙配付)發行セリ
配付先
關係各司令部、海軍兵學校、海軍經理學校

○本日海軍公報發行セス

○轉勤者赴任先
當廠へノ轉勤者ハ東京急行電鐵(湘南線)金澤八景驛下車(徒
歩約五分)ノコトニ取計ハレ度
(第二海軍技術廠)

當隊ハ六月二十日附舊關東海軍航空隊ノ改稱セラレタルモノナ
リ
轉勤者ハ静岡縣志太郡藤枝航空基地ニ向ケ赴任セシメラレ度

(内令第六三五號別表)

(昭和二十年七月二十三日祕海軍公報)

考 備	計		班 附		班 員 佐	班 長 大 中 佐
	一 班長ハ海軍航空本部總務部第一課長ヲ以テ之ニ充ツ 二 班員ハ海軍航空本部部員十四人(内一人ハ調査主任ニ充ツ)、海軍省軍務局局員二人、人事局局員四人、軍需局局員一人、軍令部部員一人、海軍艦政本部總務部部員一人ヲ以テ之ニ充ツ 三 班附ハ海軍航空本部出仕又ハ附タル者ヲ以テ之ニ充ツ	士 官		主計科中少尉		主計科大尉
三十一人		四		三	二十三	
兵		下士官	准士官	兵	主計兵曹	各科兵曹
	三人	五人	一人	三	二	三
						一

2591

秘

海軍公報

第五〇七八號

昭和二十年七月二十四日(火)

海軍大臣官房

命令 達

内令第六三六號

特設海軍航空輸送廠令左ノ通定メラル

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

特設海軍航空輸送廠令

第一條 大東亞戰爭中海軍航空輸送廠ヲ置ク

第二條 海軍航空輸送廠ハ海軍航空本部ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル

一 航空輸送ニ關スル事項

二 航空輸送所要ノ航空機部品ノ造修ニ關スル事項

三 航空輸送作業等ニ關シ他ノ各部ニ對スル協力ニ關スル事項

第三條 海軍航空輸送廠ニ總務部及作業部ヲ置ク

各部事務ノ分掌ハ海軍大臣之ヲ定ム

第四條 海軍大臣ハ必要ニ應ジ海軍航空輸送廠ノ支廠ヲ置キ其

ノ事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第五條 海軍航空輸送廠ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

支廠長

検査官

部員

副部員

附

前項職員ノ外必要ニ應ジ附トシテ軍屬其ノ他特種人員ヲ置ク

第六條 廠長ハ海軍航空本部長ニ隸シ廠務ヲ總理ス

第七條 廠長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ職員

ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第八條 廠長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ職員席次ニ從ヒ

其ノ職務ヲ代理ス但シ海軍航空本部長特ニ代理者ヲ置キタル

場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 部長ハ廠長ノ命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ掌ル

前項ノ外總務部長ハ廠長ヲ佐ケ海軍航空輸送廠ノ事務ヲ兼理

ス

第十條 支廠長ハ廠長ノ命ヲ承ケ支廠ノ事務ヲ掌理ス但シ鎮守

府、警備府、商港警備府又ハ艦隊作戦地域分擔區域内ニ於ケ

ル航空輸送ニ關シテハ當該司令長官ノ指示ヲ承ク

第十一條 検査官ハ廠長ノ命ヲ承ケ航空機部品及事業ニ要スル

材料物品等ノ検査ニ關スルコトヲ掌ル

20.8.1 授受

2592

秘海軍公報 第五〇七八號 昭和二十年七月二十四日

八〇三

第十二條 部員及副部員ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス
 第十三條 附ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス
 第十四條 海軍大臣ハ必要ニ應ジ支廠長ヲシテ廠長監督ノ下ニ於テ支廠ニ關スル海軍航空輸送廠事務ノ一部ヲ管掌セシムルコトヲ得
 第十五條 海軍大臣ハ必要ニ應ジ海軍航空輸送廠又ハ支廠ノ出張所ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
 第十六條 海軍航空輸送廠ノ定員表ハ別表ニ依ル

(別表添)

内令第六三七號
 左ノ地ニ海軍航空輸送廠ノ支廠及出張所ヲ置ク其ノ呼稱左ノ通定ム
 昭和二十年七月十五日

海軍大臣

支廠及出張所ヲ置ク地	呼稱
東京	海軍航空輸送廠東京支廠
福岡	海軍航空輸送廠福岡支廠
大阪	海軍航空輸送廠大阪出張所

内令第六三八號
 特設海軍航空輸送廠處務規程左ノ通定ム

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

特設海軍航空輸送廠處務規程

第一條 海軍航空輸送廠處務規程第一條及第三條乃至第五條ノ規定ハ特設海軍航空輸送廠ニ之ヲ準用ス
 第二條 廠長ハ部員以下定員ノ配屬ヲ定メ之ヲ海軍航空本部長ニ報告シ又海軍省軍務局長及人事局長ニ通報スベシ
 第三條 總務部ニハ海軍航空輸送廠規程第七條、第十三條及第十四條ノ規定ヲ準用ス但シ各課ノ區分ハ之ヲ行ハザルモノトス

第四條 作業部ハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 航空輸送ノ計畫及實施ニ關スルコト
- 二 航空輸送所要ノ航空機部品ノ造修ニ關スルコト
- 三 航空輸送ニ關聯スル通信ノ計畫及實施ニ關スルコト
- 四 所掌事項ノ出師準備計畫ニ關スルコト
- 五 所屬工物及共ノ機械器具ノ整備、入費概算及保存期限ニ關スルコト
- 六 所屬工物物ノ新築及改更ニ伴フ計畫ニ關スルコト
- 七 所屬員(職員ヲ除ク)ノ教育、維持及増減給ニ關スルコト

第五條 支廠ニハ海軍航空輸送廠規程第十七條ノ規定ヲ準用ス

(内令提用卷一、三〇ノ一七頁参照)

内令第六三九號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

潜水艦、一等伊四百型ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

伊五百一型

伊號第五百一、伊號第五百二、伊號第五百三、伊號第五百四、伊號第五百五、伊號第五百六

(内令提要卷三、三八頁参照)

官房人機密第四六八號

本年七月十五日現在左記上欄各隊ノ職員タル者ハ特ニ發令セラ
ルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ相當職員ニ補命セ
ラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

記

東京海軍航空隊 役ヶ浦海軍航空隊

第一〇二一海軍航空隊 第一〇八一海軍航空隊

官房人機密第四六九號

本年七月十五日現在海軍兵學校針尾分校職員タル文官ハ特ニ發
令セララルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ海軍兵學校防府分校
ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

官房設機密第四四四號

海軍施設工務等非常措置特例左ノ通定ム

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

海軍施設工務等非常措置特例

第一章 總則

第一條 當分ノ間施設工務其ノ他ノ處理ニ關シ本令ニ掲グル事
項ニ付テハ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ本令ノ定ムル所ニ依ルベ
シ

第二章 施設工務

第二條 特設海軍建設部、同支部、南西方面海軍民政府及南西
方面海軍民政部ハ築城及一般施設ノ實施ニ關シ之ヲ海軍施設
工務規則ニ依ル施設工務廳ト看做ス

第三條 施設工務ニ關スル其中、報告、屆書等ニ添附スル地形
圖、位置圖及實測圖ハ海軍施設工務規則第六條ノ規定ニ拘ラ
ズ適宜ノ縮尺及用紙ニ依ルコトヲ得

第四條 海軍施設工務規則第七條ノ規定ニ依ル手續ハ之ヲ省略
スルコトヲ得

第五條 施設工務ハ海軍施設工務規則第八條乃至第十條ノ規定
ニ拘ラズ同則第十條ノ二ノ概略訓令ニ基キ施設工務廳長ノ屬
スル所屬長官(以下單ニ長官ト稱ス)ノ命令ニ依リ之ヲ施行
スベシ但シ所要事項ニ關シテハ海軍施設本部長ヲシテ之ヲ通
牒セシム

牒セシム

長官前項ノ命令ヲ發シタルトキハ其ノ命令寫ヲ以テ海軍大臣ニ報告シ海軍施設工務規則第十條ノ二ノ規定ニ依ル實施計畫ノ報告ヲ省略スルコトヲ得

第六條 海軍施設工務規則第十二條第二項ノ規定ニ依ル協議ハ之ヲ省略スルコトヲ得但シ海軍部外ヨリノ受託工事は關シテハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 施設事務所(施設工事實施ノ爲設置セラレタル事務所ヲ謂フ以下同ジ)ニハ左ノ書類ヲ備フベシ

- 一 工事設計書
- 二 工事工程表
- 三 工事記録

請負工事ノ場合ハ當該契約書及持込材料検査簿ヲ備フベシ

第八條 海軍施設工務規則第十八條、第十九條及第二十一條ノ規定ニ依ル報告ハ之ヲ省略スルコトヲ得但シ主要施設工事は關シテハ海軍施設本部長ノ定ムル所ニ依リ所要ノ報告ヲ提出セシム

第三章 工事豫算

第九條 工事豫算ハ工事別區分整理ヲ省略シ全工事ヲ左ノ各號ニ依リ一括整理スベシ但シ特ニ區分整理ヲ爲ス必要アルトキハ海軍施設本部長ヲシテ通牒セシム

一 施設事務所ニ於テハ第一號書式ノ工員勤務簿及第二號書式ノ供給入夫簿ヲ備ヘ工費ヲ適確迅速ニ記入整理スベシ
工員勤務簿ハ毎月十五日之ヲ締切リ供給入夫簿ト共ニ本部

(施設事務所ニ對シ施設部ヲ本部ト稱ス以下同ジ)ニ送付スベシ

二 施設事務所ニ於テハ毎月前號ノ工費ニ現地ニ於テ直買セル材料費其ノ他ヲ加ヘタル第三號書式ノ工事豫算調書ヲ調製シ之ヲ本部ニ送付スベシ

三 本部ニ於テハ前號ノ外左ノ經費ヲ加算シ工事豫算決算額トスベシ

(イ) 本部ニ於テ支出セル材料費

(ロ) 不動産買收費

(ハ) 請負工事費

(ニ) 委託工事費

(ホ) 部隊(設營隊ヲ含ム)ノ支拂ニ係ル營繕費

(ヘ) 其ノ他本部ノ支出ニ係ル營繕費

四 工事別區分整理ヲ要スルトキハ所要工費、材料費其ノ他ノ經費ノ見込額ヲ以テ決算額ト爲スコトヲ得

第十條 作場費ハ其ノ所要豫算ヲ別途海軍施設本部長ヲシテ通牒セシム

第十一條 他ノ施設工務廳ヨリノ受託工事は受託廳ノ豫算ヲ以テ之ヲ支辨スベシ

第十二條 施設工務廳以外ノ部内他廳ヨリノ受託工事は在リテハ受託廳ノ豫算ヲ以テ立替ヘ支辨シ置キ海軍施設本部ハ委託元主務部局ヨリ豫算ノ移用ヲ受クベシ

第十三條 海軍部外ヨリノ受託工事は其ノ都度受託造修費豫算

ノ配付ヲ受ケ之ヲ支辨シ受託廳ニ於テ職入納付ノ手續ヲ爲ス
ベシ

第十四條 施設工務廳長ハ毎月末日第四號書式ノ工事豫算現況
報告ヲ調製シ海軍施設本部長ニ送付スベシ

第四章 施設用物品

第十五條 施設用物品ハ概略訓令豫算支辨ニテ適宜購入準備ノ
上之ヲ使用スベシ

第十六條 施設用物品ハ特ニ必要アル場合ノ外價格整理ヲ行ハ
ザルコトヲ得

第十七條 施設用物品會計官吏他ノ會計官吏ニ屬スル取扱主任
ニ消耗器具、材料及消耗品ヲ供給シタルトキハ保管轉換ノ
手續ヲ省略スルコトヲ得

第十八條 施設用物品取扱主任他ノ取扱主任ニ機械器具（消耗
器具ヲ除ク）及備品ヲ供給シタルトキハ海軍通常物品會計規
程ノ手續ヲ省略シ其ノ品名、數量及供給年月日ヲ會計官吏ニ
通報スベシ

第十九條 施設用物品取扱主任又ハ保管者ハ適宜ノ帳簿ヲ備ヘ
迅速確實ニ記帳シ物品受拂ノ嚴正適確ヲ期スベシ

第五章 國有財産

第二十條 海軍施設工務規則第二十二條ノ規定ニ依ル土地買入
報告ハ當分ノ間之ヲ提出ヲ停止ス

第二十一條 作戰上至急ヲ要スル場合ハ海軍施設工務規則第二
十四條乃至第二十八條及第三十條ニ該當スル事項ハ長官之ヲ

處理シ事後海軍大臣ニ報告スベシ食糧増産ノ爲土地ノ使用ヲ
許可スル場合亦同シ

第二十二條 海軍施設工務規則第三十六條ノ規定ニ依ル建築費
ハ建物及工作物ニ付テハ施設工務廳長ノ認定スル評價額ニ依
ルコトヲ得

第二十三條 左ニ掲グル應急施設ハ國有財産ノ登録ヲ停止シ第
五號書式ノ應急施設臺帳ヲ設ケ之ヲ整理スルコトヲ得

一 丙級建物及其ノ附屬工作物並ニ之ニ準ズルモノ
二 應急ノ防備防空施設

三 主トシテ兵力又ハ工作廳ノ勞力等ニ依リ設置ノ應急施設
第二十四條 海軍施設工務規則第三十八條ノ規定ニ依ル國有財
産位置圖ハ適宜ノ縮尺及大サノモノヲ用フルコトヲ得

第二十五條 海軍施設工務規則第四十三條及第四十三條ノ二ニ
該當スル事項ハ長官之ヲ處理シ其ノ報告ヲ省略スルコトヲ得
但シ土地ノ用途廢止ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十六條 國有財産ヲ亡失シ又ハ重大ナル毀損ヲ生ジタルト
キハ速ニ海軍施設工務規則第三十四條第二項ノ規定ニ依リ登
録傳票ヲ海軍施設本部ニ送付シ同則第四十四條ノ規定ニ依ル
報告ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十七條 有料官舎ノ使用料ヲ定ムルトキ又ハ之ヲ改ムルト
キハ海軍施設工務規則第四十七條ノ規定ニ拘ラズ長官之ヲ處
理シ其ノ報告ヲ省略スルコトヲ得

第六章 計算證明

第二十八條 戰時海軍計算證明規程第四十四條第二項ノ直營工事竣工報告書ハ當分ノ間之ヲ提出ヲ停止ス

附則

本令ハ昭和二十年七月一日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十九年四月一日官房設機密第七五二號及同年八月十日官房設機密第一六三〇號ハ之ヲ廢止ス

既訓令ノ處理ニ關シテハ海軍施設本部長ヲシテ通牒セシム
(書式ハ海軍施設本部長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム)

官房軍第三五七號

雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス

昭和二十年七月二十二日

海軍大臣

公稱番號 (船名)	船種	舊所屬	新所屬	別定數	記事
第五四號 曳 (三百噸)	校	横須賀海軍砲術學校館山分	第二海軍燃料廠	臨時附屬	
阿多田	練習船	海軍兵學校	海軍兵學校 (第二特攻隊司令部供用)	同	

官房經第四三三號

戰時軍人軍屬旅費特例中左ノ通改正ス

昭和二十年七月二十三日

海軍大臣

第一條 大東亞戰爭中海軍軍人軍屬(工員及傭員ヲ除ク以下之

・ニ同ジ)ノ旅費ハ海軍内國旅費規則、海軍南洋羣島關東州滿洲旅費規則及海軍外國旅費規則ニ依ルノ外本令ニ依ル

第一條ノ二 本令ニ於テ戰地又ハ準戰地トハ海軍戰時特例給與規則第一條ノ二ニ掲グル地域ヲ謂フ

第九條中「伊豆諸島、薩南諸島、琉球諸島及臺灣ヲ謂フ以下之ニ同ジ」ヲ削ル

第十一條ノ二第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項第一號ノ規定ハ兵、學徒勤勞隊員、被徵用者又ハ其ノ家族危篤又ハ死亡ノ際此等ノ者歸省又ハ出頭スル場合ニ付之ヲ準用ス

第十一條ノ四中「鐵道ハ」ヲ「鐵道(地方鐵道及軌道ヲ除ク)ハ」ニ改ム

第十一條ノ十一 支那内ヲ旅行スル者ニハ海軍外國旅費規則其ノ他ノ規則ニ依リ定メラレタル旅費額ニ別表第三ニ依ル増給率ヲ乘ジタル額ヲ臨時増給トシテ支給ス

第十一條ノ十二 特務士官、准士官以下ノ軍人ニシテ艦隊又ハ戰隊司令部職員及同附ト爲リタルモノノ家族移轉料支給上ノ勤務地ハ海軍内國旅費規則第六條第五號但書ノ規定ニ拘ラズ該艦艦所管ノ領守府又ハ警備府所在地トス

第十三條中「(特務士官、准士官以下ノ軍人ニ在リテハ本人ノ在籍ノ領守府又ハ警備府所在地)」及同條ハ中但書ヲ削ル

第十五條ノ二 家族移轉完了届ハ廳長特ニ必要ト認ムル場合ノ外海軍内國旅費規則其ノ他ノ規定ニ拘ラズ之ヲ省略スルコト

ヲ得

第十八條ノ二 豫備員候補者ニシテ赴任又ハ轉勤旅行ヲ爲スモ

ノノ移轉料ハ海軍内國旅費規則第六表定額ノ二分ノ一トス

第十八條ノ三ヲ削ル

第十九條中「戰地若ハ準戰地トノ間、關東州若ハ滿洲トノ間」

ヲ「戰地、準戰地、關東州若ハ滿洲トノ間」ニ改ム

第二十條ノ二 海軍内國旅費規則、海軍南洋群島關東州滿洲旅

費規則及海軍外國旅費規則ニ依リ海軍大臣ノ認許ヲ受クベキ

事項ニ付テハ當該規則ニ拘ラズ所屬長官ノ認許ヲ受クルモノ

トス

附則

本令ハ昭和二十年七月一日ヨリ之ヲ適用ス但シ第十一條ノ十一

ノ改正規定ハ昭和二十年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用スル

コトヲ得

昭和十八年官房經第九三號及昭和十九年官房經九五號ハ之ヲ

(別表第三)

種別	増給率								
日當及食卓料	三十割								
宿泊料	<table border="1"> <tr> <td>上</td> <td>百割</td> </tr> <tr> <td>中南支(上海及海南島ヲ除ク)</td> <td>五十割</td> </tr> <tr> <td>北支</td> <td>三十割</td> </tr> <tr> <td>蒙疆及海南島</td> <td>二十割</td> </tr> </table>	上	百割	中南支(上海及海南島ヲ除ク)	五十割	北支	三十割	蒙疆及海南島	二十割
上	百割								
中南支(上海及海南島ヲ除ク)	五十割								
北支	三十割								
蒙疆及海南島	二十割								

移、轉

二十割但シ本邦、南洋群島、關東州及滿洲ヨリ支

那ニ赴任又ハ轉勤スル者ニ付テハ十割

(參照) 戰時軍人軍屬旅費特例 海軍機密會計法規類集 二二九頁

昭和十八年官房經第九三號海軍會計法規類集三卷六四八頁

同 官房經第九五號同 六五二ノ二頁

○雜 款

○從軍年加算付與ニ關スル件

今般官房人第一三八號ヲ以テ從軍年加算ニ關スル件改正セラレ

昭和十九年七月十日以降當隊學生、生徒、練習生、新兵、内火

衛(自動車)講習員ニ對シ戰務丁加算付與セラルルコトト相成

候ニ付テハ同日以後費所轄ニ轉勤セル者ニ付調査ノ上左記ニ依

リ履歷記註恩給年敘勳年加算通知等可然處理相成度

記

自昭和十九年七月十日 德島海軍航空隊ニ於テ 戰務丁 德島空

至昭和十九年七月十日 德島海軍航空隊 (德島海軍航空隊)

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始月日	記 事
波號第二百十七務所 艦艇裝具事務	内 佐世保海軍工廠	七月二日	電話 工廠内 五二七六番
波號第二百十八務所 艦艇裝具事務	同	七月七日	同
波號第二百十九務所 艦艇裝具事務	同	七月八日	同

秘海軍公報 第五〇七八號 昭和二十年七月二十四日

八〇九

事務所撤去	波號第三百十三 潜水艦艇裝員事務所	波號第二百十四 潜水艦艇裝員事務所	三澤海軍航空隊 殘務整理班	第十一水雷戰隊 (四六四)司令 部殘務整理班	軍糧酒匂内(當 分ノ間)	七月五日	七月十五日解隊 當隊ヨリ發布ノ諸令違ハ指 定ノ如何ニ拘ラズ燒却度分 相成度	神戶輪田梨佛所	七月八日	六月三十日解隊 郵便物發送先 從前通	舊三澤海軍航空 隊内	六月三日	六月三十日解隊 郵便物發送先 從前通
○事務所撤去	伊號第二百三潜水艦艇裝員事務所	伊號第二百四潜水艦艇裝員事務所	伊號第二百二號海防艦艇裝員事務所	○轉勤者赴任先 當司令部へノ轉勤者ハ三重縣上野市(關西本線伊賀上野驛下車 近畿日本鐵道伊賀線ニ乗換上野市驛下車)ニ向ケ赴任セシメラ レ度 (第一〇一航空戰隊司令部) 當隊へノ轉勤者ハ左ニ依リ赴任セシメラレ度 第二〇三海軍航空隊 戰團第三〇三飛行隊 戰團第三〇九飛行隊 福岡縣京都郡仲津村 (日豊線新田原驛下車)	○事務所撤去	伊號第二百三潜水艦艇裝員事務所	伊號第二百四潜水艦艇裝員事務所	伊號第二百二號海防艦艇裝員事務所	○事務所撤去	伊號第二百三潜水艦艇裝員事務所	伊號第二百四潜水艦艇裝員事務所	伊號第二百二號海防艦艇裝員事務所	伊號第二百三潜水艦艇裝員事務所
○事務所撤去	伊號第二百三潜水艦艇裝員事務所	伊號第二百四潜水艦艇裝員事務所	伊號第二百二號海防艦艇裝員事務所	○轉勤者赴任先	軍糧酒匂内(當分ノ間)	七月五日	七月十五日解隊 當隊ヨリ發布ノ諸令違ハ指 定ノ如何ニ拘ラズ燒却度分 相成度	神戶輪田梨佛所	七月八日	六月三十日解隊 郵便物發送先 從前通	舊三澤海軍航空隊内	六月三日	六月三十日解隊 郵便物發送先 從前通
○事務所撤去	伊號第二百三潜水艦艇裝員事務所	伊號第二百四潜水艦艇裝員事務所	伊號第二百二號海防艦艇裝員事務所	○轉勤者赴任先	軍糧酒匂内(當分ノ間)	七月五日	七月十五日解隊 當隊ヨリ發布ノ諸令違ハ指 定ノ如何ニ拘ラズ燒却度分 相成度	神戶輪田梨佛所	七月八日	六月三十日解隊 郵便物發送先 從前通	舊三澤海軍航空隊内	六月三日	六月三十日解隊 郵便物發送先 從前通
○事務所撤去	伊號第二百三潜水艦艇裝員事務所	伊號第二百四潜水艦艇裝員事務所	伊號第二百二號海防艦艇裝員事務所	○轉勤者赴任先	軍糧酒匂内(當分ノ間)	七月五日	七月十五日解隊 當隊ヨリ發布ノ諸令違ハ指 定ノ如何ニ拘ラズ燒却度分 相成度	神戶輪田梨佛所	七月八日	六月三十日解隊 郵便物發送先 從前通	舊三澤海軍航空隊内	六月三日	六月三十日解隊 郵便物發送先 從前通

戰團第三〇三飛行隊 大分縣宇佐郡宇佐航空基地
(日豊線柳ヶ浦驛下車)
山口縣岩國市岩國航空基地
追テ旅費ハ右基地迄前金拂(家族移轉料ハ二〇三空及各戰團
隊共横須賀市)ノコトニ取計ハレ度
(第二〇三海軍航空隊)

自今當隊へノ轉勤者ハ特ニ指示スル者ノ外總テ舞鶴航空基地
(京都府與謝郡栗田村)海軍旭部隊(九〇一空)ニ向ケ赴任(旅
行)セシメラレ度
(第九〇一海軍航空隊)

○正誤
七月十四日祕海軍公報雜款欄移轉記事三ノ項中「毎月公用使
發差ス」ハ「毎日公用使ヲ發差ス」ノ誤

○本日軍械祕海軍公報第一六八號(乙配付)發行セリ
配付先
關係各司令部、各海軍經理部(特設ヲ含ム)、各海軍施設部
(特設ヲ含ム)、各海軍軍需部、各海軍工廠、各海軍工作部、
各海軍技術廠、各海軍航空廠、同補給工場、各海軍火藥廠、
各海軍衣糧廠、海軍聯合航空隊、内地、外地各海軍在勤武
官、各海軍監督官、監理官、監査官、海軍電測學校、海軍
工作學校、各海軍特設運輸部、海軍軍用郵便所

○本日海軍公報發行セス

(内令第六三六號別表)

海軍航空輸送廠定員表

(昭和二十年七月二十四日祕海軍公報)

考 備	計	長	總務部長	業務部長	支廠長	檢査官	副部長	
	士	中	各科長	各科長	各科長	中	各科長	
		少	大	大	大	少	少	
		將	中	中	佐	佐	佐	
			佐	佐	佐	佐	佐	
			官	官	官	官	官	
			兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	
			兼務二	兼務二	兼務二	兼務二	兼務二	
			三十	三十	三十	三十	三十	
			內兼務三人	內兼務三人	內兼務三人	內兼務三人	內兼務三人	
一	本表ノ定員ハ高等文官又ハ微用員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得							
二	本表ノ外附トシテ軍屬千五百人以內ヲ置クコトヲ得							
三	海軍大臣ハ必要ニ應ジ本表ノ人員ヲ臨時増減スルコトヲ得							